

Milford Track 縦走報告書

M3 荒川 晶

①Milford Track とは

先日 1/22(水)~1/25(土)の 4 日間掛けて、オーストラリアでの短期留学の前に New Zealand 南島にある Milford Track を縦走してきました。

Milford Track とは南島南西部にあるフィヨルドランド国立公園内の、Te Anau Downs から Milford Sound までのおよそ 53km を縦走するルートです。基本的には Grade Wharf から Clinton 溪谷というフィヨルド溪谷の中を歩き、途中峠に相当する Mackinnon Pass を越えて反対側の Arthurs 溪谷へと抜け、Sandfly Point に至ります。



(上 図)Fiordland National Park は南島の南東に位置する。

(右図)Milford Track の Map。右下が Grade Wharf で、くの字型のルートが折れ曲がるのが Mackinnon Pass 、右 上 が Sandfly Point。



このトレッキングルートは世界的に見ても非常に注目度が高いために、NZ 政府の DOC(Department of Conservation)と呼ばれる省庁が、ピークシーズンとなる 10 月上旬から 3 月下旬までの間、環境保護の観点から厳しく入山を制限しています。具体的な入山方法は、①DOC のオフィスに直接申し込む Individual Walk と、②Ultimate Hikes というトレッキングツアーの実施会社に申し込む Guided Walk の 2 つがあります。それぞれ 1 日当たりの人数制限は 40 人とあり、私が見た限りではほぼ全日が予約で埋まっていました。また、ピークシーズンは Te Anau から Sandfly Point までの一方通行となるのも大きな特徴です。

私の希望した日時も予約で満席だったのですが、毎日 HP で空き状況をチェックしていた結果、幸運にもキャンセルが出たようで希望日程で Individual Walk を申し込むことが出来ました。コストですが、申し込み時に Te Anau Downs から GradeWharf までのフェリー・途中の小屋(以下 Hut と表記)3 泊の費用・Sandfly Point から Milford Sound のフェリー代を全て一括してクレジットカードで支払う必要があり、これが大体 NZD270 ぐらいになりました。(1NZD=85 円ほど)

Individual Walk で歩く場合、Milford Track 上には Campsite はなく、Hut に宿泊する必要があります。定員はいずれも 1 日の上限人数 40 人ぴたりで、原則、天気が悪くても Walker は必ず定められた日時に定められた Hut に宿泊しなければなりません。Hut は寝具・食糧持参で、内部にガスコンロが整備されているものの、点火器具はないのでライターかマッチを持ってくる必要があります。(私はこれを忘れてしまい苦労しました。) 各 Hut には Ranger がいて、毎日夜 8 時ぐらいから Ranger Talk を行い翌日のルートの注意点や付近の自然、明日の天候等について簡単な説明があります。

一方で、Tour Walk に参加すると寝具・食事・シャワー付きの豪華な Hut に宿泊することができて非常に快適に過ごすことが出来るようですが、コストは\$2000 近くなるので、参加者は自ずと金銭的余裕のある中高年が中心になります。こういったスタイルの山歩きは日本にはないので、自然保護に関する考え方の違いを実感する一助になりました。

②概要・感想

海外での Tramping(NZ では Trekking のことをこう呼ぶそうだが)は初めてでもあり、また「世界で最も美しい散歩道」の名前の通り、4 日間を通じて素晴らしい景色を楽しむことが出来ました。基本的に海外と同様、山の頂上を目指す行為は Climing として定義され、別のスポーツとして認識されているからか、登攀は基本的に行わないルートでしたが、景色や自然のスケール感を楽しむという点では素晴らしい経験になりました。また日本では、自動車で通過可能な林道の整備で省略されてしまいがちな、Summit へのアプローチ自体もコースとして定義されているのも意外でしたが、そのアプローチを時間を掛けて歩くという行為そのものも山の魅力の一つではないかとも感じました。

同国内にはあちこちに数多くのルートが散在しており、しかも気候・地質が場所によって違うため、それぞれで全く違った景観を楽しむことが出来るそうなので、いつになるか分かりませんが、次回 NZ を訪問する機会があれば、他のルートも歩いてみたいと思います。

一方で反省点も多く残りました。まずはスケジュール上、NZ 旅行中に持ってきた荷物を全て持ち歩かなければ行かなかったこと。荷物はもともと最小限に留めた筈でしたが、それでもガイドブックや予備の着替えなどを何処かのホテルに預けられるような行程を組むべきでした。必要最低量よりかなり多くの装備を持ち歩くことになった結果、全体的に他の Walker よりペースダウン気味、余計な疲労を溜め込むことになったのではないかと思います。

次いで言語や文化の問題。致命的なミスに繋がることはなかったのですが、どうしても話をしていて相手の言っていることがスムーズに分からないのはストレスになります。Hut での食事の作り方やトイレの使い方やゴミの管理など細かいことが日本と違い厄介でした。また、Summer Time を導入しているのと、日が長いためか、起床時間は基本的に朝 7 時過ぎ、8 時~9 時の間に出発するというのが一般的な歩き方ようです。(日出 06:30 頃~日没 21:00 頃) 夜は到着後順次食事を作り、21 時頃就寝でした。あとやはり白人社会の中で東洋人は目立つなと実感しました。

他には、行程中ほどでカメラのレンズが内側から曇ってしまったことでしょうか。日本でも何度か雨天の中カメラを持ち歩いたことはあったのですが、そうしたトラブルがなかったため、大いに困惑しました。実際、3日目の後半にルート上で転倒し、大腿四頭筋を打撲してしまうのですが、上記に挙げた原因があったのではないかと思います。この1か月後、オーストラリアのタスマニア島でも1週間ほどトレッキングを行ったのですが、上記については特に注意を払いました。

③実際の行程

1/22(Wed) 天候：雨時々止む(Te Anau までは晴れ) 行動時間 1 時間 20 分

Queenstown06:55～(バス)～09:30Te Anau(町内散策)12:15～(バス)～12:45Te Anau Downs13:00(フェリー)～14:15Grade Wharf

Grade Wharf14:20～Grade House Lodge14:40～Clinton Hut16:00(小屋泊)

1/23(Thu) 天候：雨のち曇り 行動時間 7 時間

Clinton Hut09:30～12:05 8mile post 12:30～14:05Bus Stop Shelter14:50～Pompolona Shelter 15:00～16:30 Mintalo Hut

1/24(Fri) 天候：晴れ 行動時間：10 時間 15 分

Mintalo Hut 08:00～09:50 Mackinnon Memorial 11:00～Mackinnon Pass 11:25～11:40 Mackinnon Hut 12:25～14:50 Quintin Lodge 15:05～15:50 Southerland Falls 16:00～16:50 Quintin Lodge 17:20～18:15 Dumbling Hut

1/25(Sat) 天候：晴れ 行動時間：7 時間 10 分

Dumbling Hut 07:00～08:50 Book Hut 08:55～09:20 Bell Rock 09:35～○○Hut12:00～12:55○○13:20～14:10 Sandfly Point

Sandfly Point15:00～(フェリー)～15:20 Milford Sound

④本文

<1 日目>

6 時過ぎに泊まっていた Queenstown の YH をチェックアウト。昨日も到着が遅くて眠いが、バスが 1 日 1 便しかないのでは仕方ない。朝のすがすがしい空気の中 Wakatipu 湖湖畔を散策。リゾート地なので夜は遅くまで賑わう一方、早朝は人気は少ない。日本と同様に、集団でラジオ体操をしているグループがいた。

事前に予約しておいた Tracknet 社の路線バスに乗車。日本の小型バスぐらいの大きさで、定員は 20 名ほど。この日は Backpacker らしい乗客 10 人ほど。東洋人は自分だけ。Wakatipu 湖畔沿いの道路をひたすら走り、眺めも良好。牧場には羊がたくさんいた。途中で乗り換え客のための小休憩を挟んで 2 時間半ほどで Te Anau の DOC の Office 前に到着した。このバスにそのまま乗車していけば Te Anau Downs まで行ってくれ、Ferry の午前便に乗り継げるのだが、折角なので午後の便まで町内を散策して時間を潰そうと思う。

まずは Office で予約していた自分の名前を告げ、Hut の宿泊券、Ferry の乗船券を受け取る。Office は Te Anau 湖畔にあるので、湖畔をのんびり散策して町の中心街へ。町自体はとても小さく長閑な雰囲気。スーパーマーケットで、この地域に良く見られる Sandfly 対策の薬液や食料品など、買い物を済ませてバスの時間に合わせて Office へ。

午後便のバスの乗客は私だけだった。Office で Clinton Hut の Ranger 宛の言伝を書いた紙を貰ったのでザックの奥の方にしまう。毎日こうして言伝を伝えているようだ。30 分ほどで Te Anau Downs に到着。午後の Ferry に乗車する乗客はさほど多くないのかなと思ったが、Guided Walk の参加者や自家用車で訪れた人など、合わせて 30 名ほどの乗客がいた。

Ferry は定刻に出発。Te Anau は晴れ時々曇だったが、Grade Wharf に近づくにつれて少しずつ天候が悪化。通り雨のようなものと軽く受け流していたが、どうやら本降りの雨のようで、地形的な要因もあり Te Anau では年間 1.000mm 程度の雨量が、今回のルートの終着点となる Milford Sound では 7.000mm 程度とかなりの差があるようだ。

1 時間少々乗船ののち、本降りの雨の中で Grade Wharf に到着。徐に雨具やザックカバーを装着して出発。好天を期待していただけに気持ちが萎縮したが、本日の行程は 2 時間弱なので仕方ないかと思い歩き始める。

3 泊 4 日の完全踏破の他にも日帰りツアーがあり、多くの人々が歩くからか、道の整備状態は良好。例えて言えば上高地～明神ぐらいの規格だろうか。20 分ほど歩いたところに Guided Walk の人たちの泊まる Grade House Lodge がある。「かなり豪華」な建物と聞いていたが、確かに一見したところきちんとした客室付きのベッドルームなどもあり、過ごしやすい環境にみえた。

Lodge を出発した所で Clinton River を渡る。綺麗な形をした吊橋で、HP で検索すると良く出てくる写真はこれのようだ。写真では晴れているが今日は雨。しかも弱まるどころかますます強まるような様子。今回必要最低限の装備に加えて、余計なものも持ってきてしまったので歩くペースは遅い。密度の濃い樹林帯の中を Clinton River 沿いに歩くことさらに 1 時間少々で、今夜の宿泊地 Clinton Hut に到着した。同時に出発した Independent Walker たちにも少し出遅れてしまい、結局この日宿泊予定の人中で、最後の到着となったようだ。

Hut に付くと、まずは、DOC で受け取った宿泊券を切取って受付ポストに投函する。ベッドには番号が振られているので、空いているベッドの中から自分の宿泊するものを選び、その番号をリストに記入して、これで自分の宿泊場所を確保することになる。

この日は午後 5 時ぐらいから Ranger が付近の動植物について解説してくれるセミナーのようなものをやっていたので、一通り荷物を整理した後でそれに参加してみたが、英語の訛りが強く聞き取り辛かった。

その後、夕食。Hut にはガスコンロがあると聞いていたが、点火装置はついておらず、しかもマッチを買い忘れてしまったので少々困った。予備にガスカートリッジ・ストーブを持ってきたのでこれで調理をする。持ってきたのは日本のごはんとレトルトの丼物。

夕食後 20:00 から Ranger Talk。この日は初日だからか、Ranger が話好きなのか、他の小屋ではそれぞれ 10 分程度だったのが、小一時間と結構長かった。明日は曇り時々雨ぐらいの天気とのこと。疲れてきたので終わったら早々と就寝。日本からここまでの移動スケジュールがややハードだったからかもしれないが、すぐに深い眠りにつくことになった。



Te Anau Towns でフェリーに乗船。いよいよ Tramping の開始だなと実感。



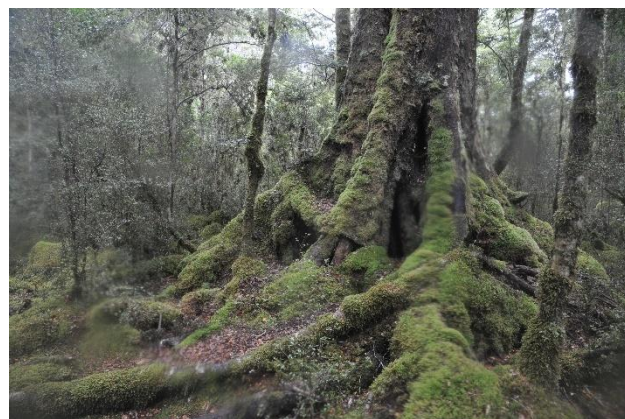
Grade Wharf で写真を撮影してもらおう。53.5km の道のりの起点。



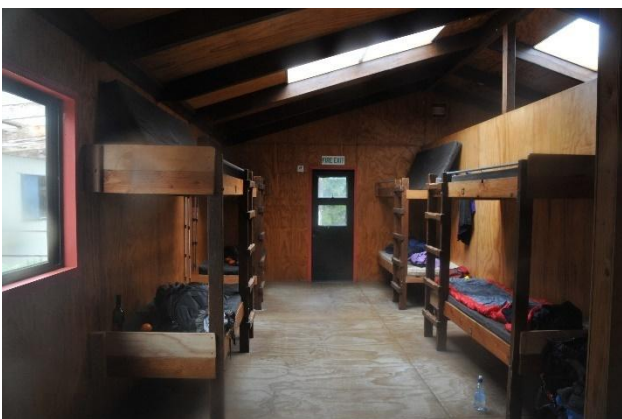
Grade House Lodge。素朴な色合いだが、中の設備は相当豪華。



Lodge を過ぎたあたりで Clinton River を吊橋で渡る。雨が強いのが残念。



苔むした森の中を行く。多雨帯であることを実感する。



Clinton Hut 内にて。内部は広く、ベッドにはマットもあり比較的快適に過ごすことが出来る。

<2 日目>

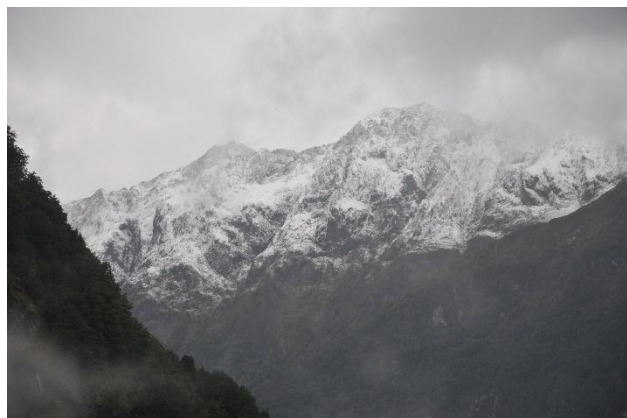
6 時前に天気を確認するために一旦起床。昨晚から断続的に雨が降り続いていたが、止みそうにないので二度寝。外を見ているとこんな天気なのにテラスで寝ている人がいて驚いた。

まだ誰も起きておらず、何時頃起きるのが一般的なのか分からなかったなので、そのまま寝ていると 7

時を過ぎて少しずつ人々が起きだしてくる。眠かったが 7 時 30 分ごろに自分も起床。昨晚の残りのごはんでお茶漬けを作り朝食にする。

すぐに荷物を纏めて出発するつもりだったが、昨晚寝る前から持参のアーミーナイフが見つからなかったのでものを探したり、付近の写真を撮影したりして思いのほか時間が掛かってしまい、出発は 09:30 になってしまった。予備に鋏を持ってきたので困らなかったが、ナイフも結局見つからず、残念であった。

雨も小降りになってきたからと気を取り直して歩き始める。コース自体は昨日と同じぐらい歩きやすい。雰囲気も昨日と同様に **Clinton River** 沿いに歩き続ける形になる。昨日より視程が良く、谷の両サイドには見上げると首が痛くなるぐらい急峻な山々が連なっており、これがフィヨルドというものかと感嘆。雨が降ると山の上から谷まで水が流れ落ちるのでそこかしこに滝が流れ落ちて、これはこれで壮観であった。1 時間ほど歩くと **DOC の Office** のスタッフの小屋があり、さらに 1 時間ほど歩いたところで **8th Mile** のポストがあったので休憩の適地と思い、ここで早くも昼食休憩を取ることにした。



(上)出発前に Hut 付近で、雲間から見えた Earl Mountains を撮影。山頂付近には雪が残る。

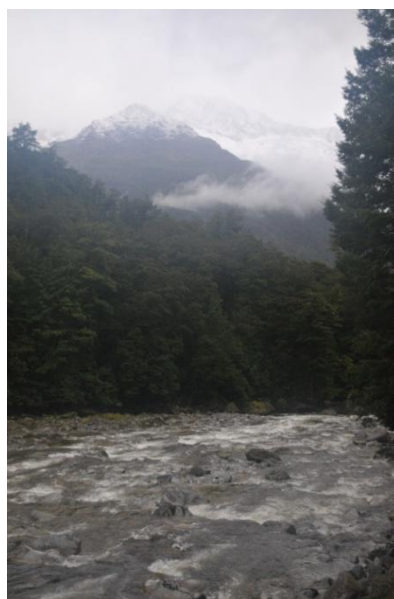
(右下)Clinton 溪谷沿いに原生林を歩く。眺望はあまりないが、時折川面を見る機会も。



散策路では Weka という鳥を見かけた。珍しいかと思って撮影したがこの後もよく見かけた。



Clinton Hut 全景。食事棟 1 棟(右)・宿泊棟 2 棟(中・左)の全 3 棟構成。





Clinton 溪谷を見上げると、上方から無数の滝が落ちてくるのが見える。

昼食を挟んで出発をしようとするが、この前後から持ってきたカメラの内側のレンズが曇ってしまい、どう撮影しても濃い霧が掛かったような写真しか撮影できなくなってしまった。もともとかなり湿度の高い地域である上に、昨日出発後に雨で濡らしてしまったことが原因だろうか。取りあえず望遠レンズに交換して歩くことにする。

少しずつ原生林を抜け、溪谷を一望できる場面も増えてくる。途中に **Hidden Lake** という小さな池があったのでここで少々写真撮影。雨の降る天気は続くが、上空の雲は少なくなり見晴らしは良くなってきた。涸沢カールも氷河地形であるがこれとはまた違い、奥行きの深いフィヨルドという山岳風景に圧倒されながら谷を歩いてゆく。1 時間 30 分ほど歩いたところで **Bus Stop Shelter** という面白い名前の **Shelter**(日本でいえば小規模な避難小屋相当)があったので、雨に濡れた体を休めるため 30 分ほど休止。広くはない **Shelter** だったが中では現地の人たちがひしめき合って食事休憩を取っていた。彼らは基本的に休みなしで歩き続けるようだが、こういうところで長時間の食事休憩を取っているようだ。

休憩後は幾つかの溪谷を渡ったところで、**Guided Walkers**が宿泊する **Pompolona Lodge**を見かける。ここを過ぎてくると、何箇所か溪谷の見晴らしのいい場所があった。レンズが曇っていたのであまり良い写真を撮影できないのが悔しいが、我慢して **Mintalo Hut** まで歩く。16:30 頃に到着。結局今日も到着は最後になってしまった。昨日と同様、食事を作って **Ranger** の話を聞いて、時間も余っていたので少し辺りを散策して就寝。



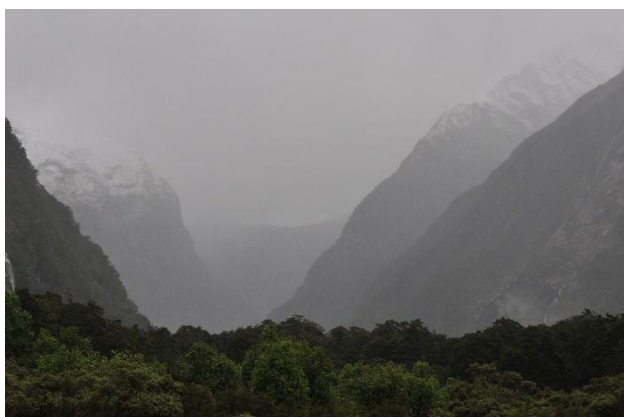
Hidden Lake にて。同じく **Nikon** の一眼レフを持った人に写真を撮ってもらった。



濃い樹林帯の中を歩く。足元は総じて良いが、所々工事中で **Muddy** なところもあった。



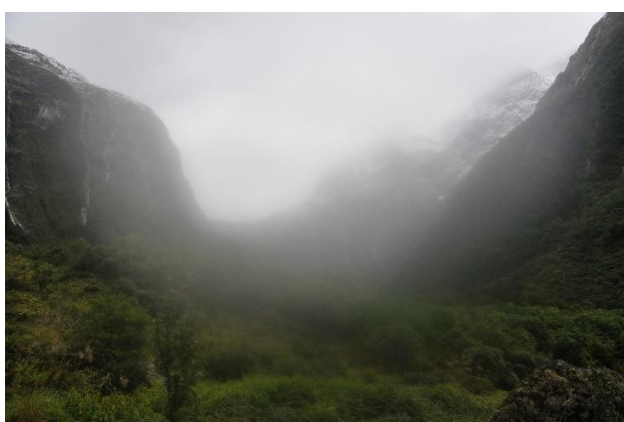
雪崩・落石危険箇所では写真のような「**No Stopping Zone**」が設定されていた。



ガスっているが、少しずつ遠方の溪谷の雰囲気も分かってくる。



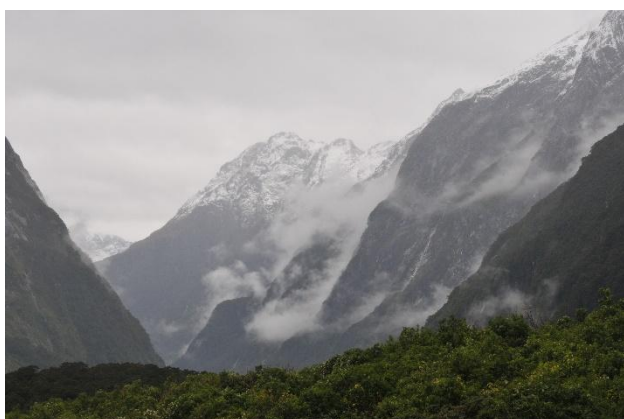
溪谷のそこかしこに小さな滝があり、見飽きることがない。



歩いている Clinton Canyon は標高 300~400m だが、周囲の山々の標高は 2000m 近い。



パラダイス・シェルドックと呼ばれる鳥のつがい
が川面で休んでいた。



午後になると少しずつ天候も良くなってきた。
Mt.Fisher(中央)の頂に積もった雪が美しい。



Mintalo Hut は Clinton Hut よりは少し小さい。
設備はおおよそ同じ。(翌日朝撮影したもの)

<3 日目>

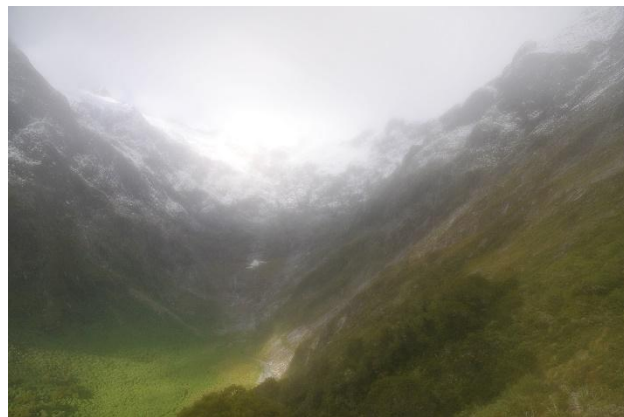
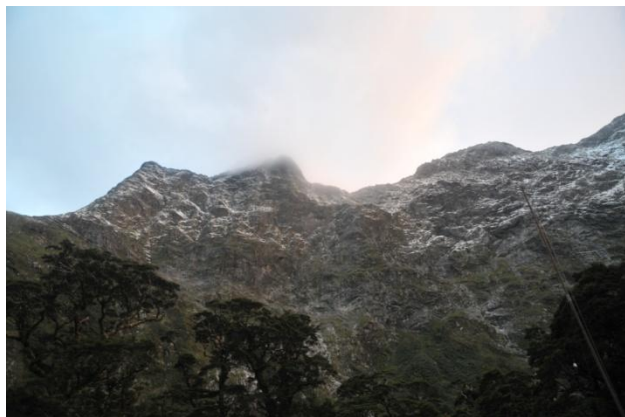
この日は Milford Track の行程で最大の見どころである Mackinnon Pass を越える日である。先にも述べたが、泣いても笑っても必ず指定された日に指定された Hut に宿泊しなければならないのがこの地域のルール。晴れば素晴らしい景観が期待できるし、晴れなければガスで何も見えない悪天候の中を

歩かねばならない。幸いにも天気予報では天気は回復傾向。早朝に目が覚めたので一度天気を確認してみると、幸いにも雲間から星が見える程度には良い天気ようだ。

今日は、**Mackinnon Pass** の景観を 1 人で時間を掛けて楽しもうと思い、他の **Tramper** たちより早目に起床して出発。目の前に山が聳え、いよいよ峠越えに入ることを実感する。**Hut** を出て 1Mile ほどはしばらく谷沿いに沿って歩き、**Clinton River** を渡ったところから勾配が厳しくなる。始めは樹林帯を歩くが、峠に近づくにつれて展望の良い場所があって来たいが高まる。ジグザグ道を越えて、2 時間弱で **Mackinnon Memorial** に到着。ここには、この **Milford Track** を開拓した **Mackinnon** 氏を顕彰する碑があるところで、行程中初めて峠の反対側の景色が見える場所である。今まで歩いてきた **Clinton Canyon** が一望できるとともに、これから先歩く **Arthur Canyon** が眼下に広がり、そのスケール感に圧倒された。

本来ではここでじっくりと写真を撮影したいところであるが、昨日に引き続き今日も広角レンズが曇ってしまい調子が悪い。朝はまずまず綺麗に撮影できたのだがますます調子は悪くなる一方。はっきりとした善後策も打ち出せないまま 1 時間以上も悶々として、レンズを望遠レンズに付け替え、風景写真は **Ipod Touch** で撮影することで妥結を見出す。その間に殆どの **Individual Walker** に追いつかれてしまい、さらに **Guided Walker** の姿もちろほらし始め 1 人でのんびりと風景を楽しむ計画はここで完全に破綻してしまった。昨日自分の写真を撮ってもらった同じ **Nikon** マウントのレンズを持っていたおじさんに広角レンズを借りて何枚か写真を撮影できたのは不幸中の幸いだっただろうか。

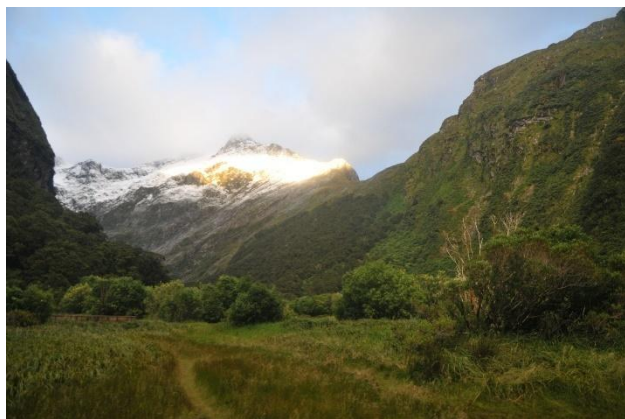
気を取り直して出発。15 分ほど歩いたところで今回の行程最高点となる **Mackinnon Pass** を通過。さらに少々歩いたところで **Mackinnon Shelter** があり、ここで昼食休憩とした。ここは一つの小屋に **Individual Walker** 用の部屋と **Guided Walkers** 用の部屋が 2 つに分かれており、内装も随分違うようだ。もちろん後者の方が豪華であるのだが。



(左上)Mintalo Hut の正面には Mt.Baloon が見上げるような高さに聳えていた。

(左) 向かいの Mt.Hart に朝日がギリリ。神々しい瞬間だった。

(上)Mackinnon Pass に向けてジグザグ道を歩く。次第に全容を現す Mt,Hart の姿が美しい。

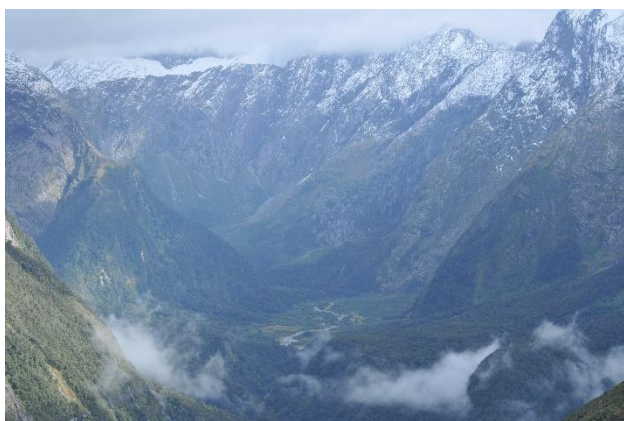




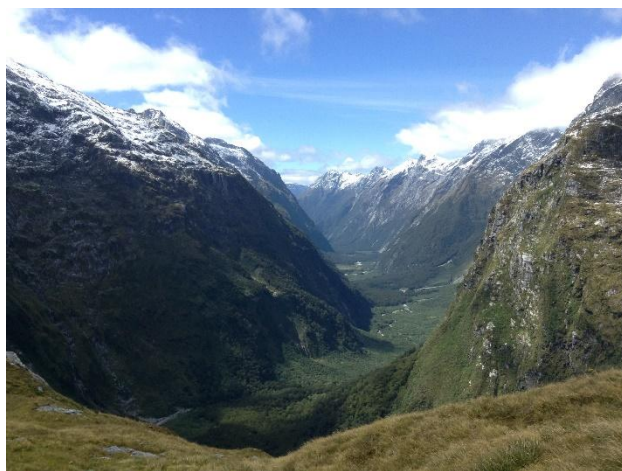
一気に展望が開けたところで Mackinnon Memorial に到着。少し曇りがち。



峠付近では Kea をしばし見かけた。いたずら好きで有名な鳥。



これから歩く Arthuer Canyon および Green Valley を遠望。望遠レンズで撮影。



Ipod で撮影した写真。Clinton Canyon の雰囲気は少しは伝わるだろうか。



今まで歩いてきた Clinton 溪谷を振り返る。自分たちより 1 日遅れで出発した人は良い天気恵まれたことだろう。



Mackinnon Pass より Mt. Baloon を撮影。槍ヶ岳を連想させるような雰囲気山だ。



遠景に広がる Mt.Hart 連山を撮影。時間が経つにつれて雲が晴れてきた。なお、Mackinnon Memorial 付近から登頂するルートもあるようだ。



Mackinnon Pass の看板。このスタイルの看板はルートの随所にあるが、深緑の背景に黄色の文字の上品な雰囲気は気に入った。

Mackinnon Memorial に到着した時はやや曇りがちであったが、この頃になると空はすっかり晴れ渡り、過ごしやすい天気になった。予定していたよりも遅れてしまったが、これはこれでよかったのかもしれない。爽やかな天候の下で出発。ここから眼下に見える Quintin Lodge まで大きく Arthur Canyon の源流部を迂回しながら下ることになる。始めは正面に Mt.Elliot を望む展望の良い歩きが続く。昨日までの雨のせいかあちこちに滝も見ており心地よい。涸れ沢などを右手に見ながら、大きく源流部をトラバースして樹林帯に入る。この付近に一箇所だけ Sutherland Falls の見える箇所があり、木々の隙間から撮影。また、この周囲は勾配がきついから木製の階段が良く整備されていて、比較的歩きやすい。Margaret Falls と呼ばれる大きな滝の眺望スポットがあったので、そこで小休止。再び樹林帯の中のジグザグ道を歩く。Mackinnon Pass 辺りからは眼下に見下ろせたはずの Quintin Lodge だが意外と遠く、Shelter を出発してから 2 時間少々も掛かってしまった。

ここは南半球最大の滝とも言われる Sutherland Falls への Side Trip が分岐する場所。Guided Walker の宿泊地となる Lodge でもあるが、Individual Walker もここに荷物をデポして出発することが多いため、専用の小屋が設けられており、中では何と紅茶とコーヒーが飲めるようになっていた。

思いのほか午後の日差しが強く、疲れを感じたのでここで少々時間を取って休息。サブザックに荷物を詰め替え、Sutherland Falls へと向かう。比較的大きな川を何度か渡りながら 40 分ほど歩いて到着。この滝は高さ 580 メートルとはあるが、実際は上段 248m・中段 229m・下段 103m の 3 つの滝から構成されており、滝壺に落ちた水は何百メートルの距離を直接落ちてきているわけではない。この滝は滝壺すぐ近くまで「雨具を着て」近づくことが出来るので近くまで行ってみると、確かに物凄い風圧と水飛沫。写真を何枚か撮影してすぐに撤収。滝のすさまじさを感じた。

滝が良く見える場所で Sandfly に囲まれながら少々休憩し、再び 40 分ほど歩いて Quintin Lodge へ。再び紅茶とコーヒーのサービスに与かり、出発。これで大体 Milford Track の見どころは全て終わったことになる。少しばかりの寂しさを感じつつも、Mackinnon Pass で天候に恵まれた自分の幸運を思いながら歩く。このままあと 1 時間ほどで Dumbling Hut へ到着…と思っていたその矢先、何でもないルート上で石に躓き大きく転倒してしまう。折悪く手を上手く使えなかったために、転んだ先の段差に大腿部

をぶつけてしまう。まさかこんな所で自分が転倒してしまうとは思わなかった。大腿部が痛むが歩けないことはない。Hut まで 20 分ほどの道のりだったので気分は動揺していたが取りあえず目的地の Hut まで移動。大体 18 時過ぎに到着。今日も随分行動時間が長くなってしまったと反省。

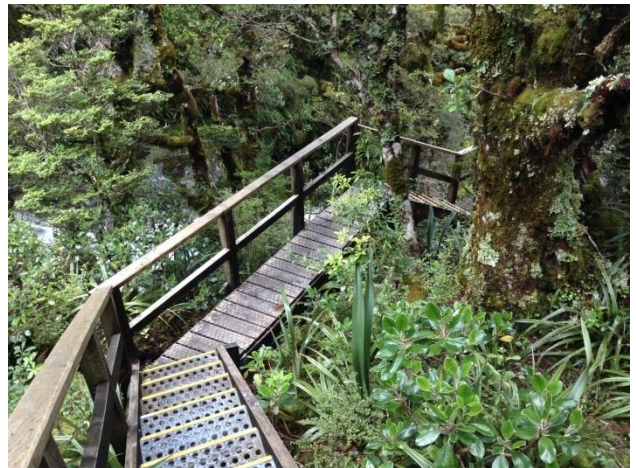
小屋について自分の寝場所を確保し、気持ちも落ち着いてきたところで改めて怪我の程度を確認。左右の手掌と右の肘部に多少の擦過傷があるが、これは消毒し絆創膏を貼れば良さそう。左右の大腿が痛むがこれは状況からして大腿四頭筋のようだ。とりあえず持参の湿布を貼っておく。夕食後までに右大腿の痛みは引いてきたが左大腿はまだ痛む。打撲かもしれないと思い、明日歩けるかどうか心配だったが、心配しても詮無き事なので早々に寝ることにした。



Mackinnon Shelter を出発して振り返る。雪を被った Mt.Hart 連山が美しい。



見上げると上から小さな滝が幾つも流れ落ちる。雨上がりならではの特典。

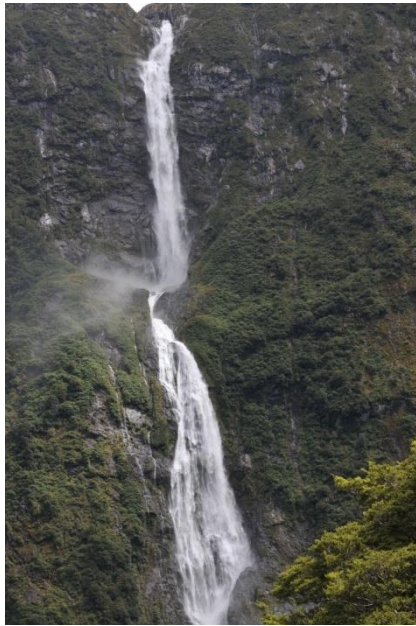


(左上)これから下る Arthur River を遠望。氷河溪谷らしいスケール感と山容が独特であった。見えるピークは左が Mt.Hart、中央やや右が Mt.Pillans。

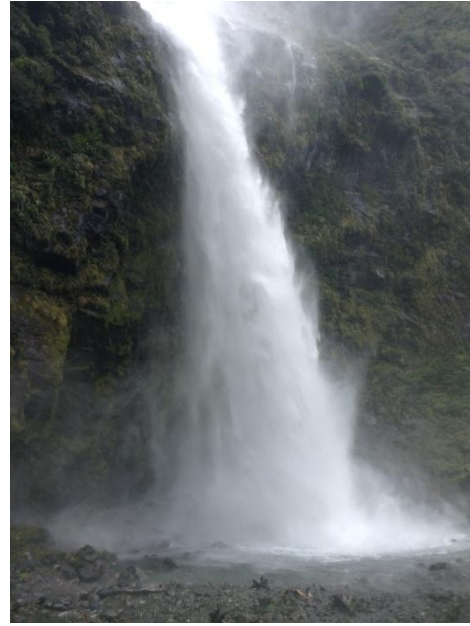
(上)勾配箇所には木道が設置され、滑り止めのため針金が巻かれてあった。

(左) Quintin Lodge から Side Trip の道すがら、Sutherland Fall を遠望。

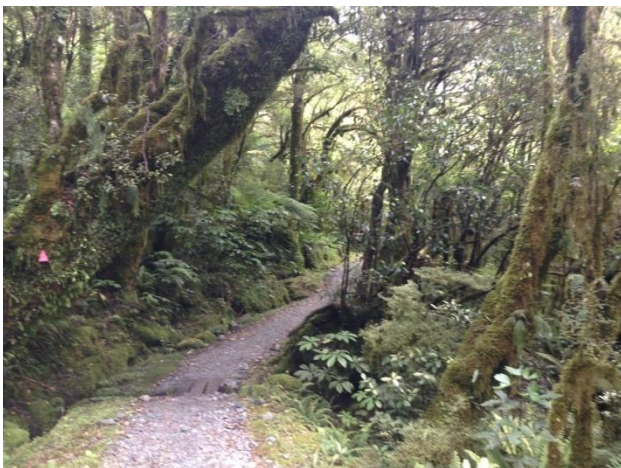




Sutherland Falls の上段と中段を撮影。この上に Lake Quill と呼ばれる湖があり、その湖畔から直接流れ落ちているらしい。



滝壺にて、びしょぬれになりながら撮影。実際は物凄い轟音が轟いていた。



日程後半は、樹林帯を歩くことが多かった。こうした何でもない箇所転倒してしまった。



何とか Dumbling Hut に到着。早目に出発したにも関わらず今日もほぼ最後の方になってしまった。

<4 日目>

今日の行程は標準コースタイムで 5~6 時間ほど。足の調子がどうだかまだはっきりとはしなかったの
で、早めに出発しようと思い、5時半に起床し、1 時間半ほど掛けて支度。この日は天気が下り坂と聞いていたので雨具を付けてロキソニン 1 錠頓服し 7 時頃に出発する。幸いにも今日はカメラは曇っていない。やっぱり初日に濡らし過ぎたのが原因だったのだろうか、次の山行からは防水バッグも持っていかなければいけないと反省。大腿四頭筋を痛めているので階段の上り下りが少し辛い、幸いにも今日の行程は殆どアップダウンもなく何とか歩けそう。途中小休止を挟みながら、Arthur River に沿って歩く。2 時間ほどで Guided Walker 用の Book Hut を通過。

ここを過ぎたところで大きな吊り橋を 2 本渡り、川の対岸に出る。出発時は曇りがちだった天気だが、

予想に反して晴れてきた。少し歩いた所で **Bell Rock** と呼ばれる、中に **Bell** 状の空洞を持った岩があり、休憩スポットになっていたのて休息がてら雨具を外す。近くには **Mackay Falls** と呼ばれる滝もあり、こちらも鑑賞。出発時は先頭だったが既に 10 人ほどに追い抜かれてしまった。

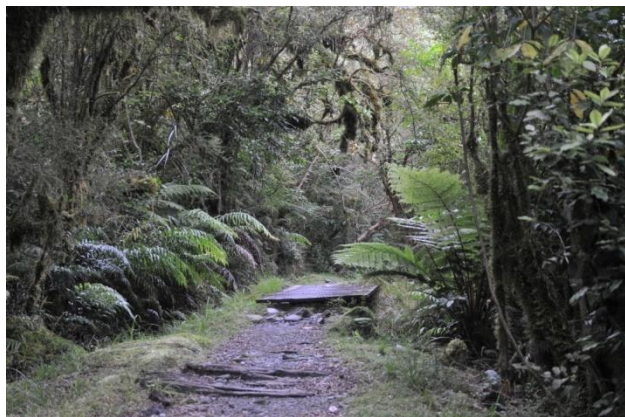
ここからは以前よりも少し道幅の大きくなった道を歩きながら川沿いに歩く。足も痛むことには痛むが何とか最後まで歩けそう。30 分ほど歩いているうちに 1 つずつ現れる **Mile Stone** を確認しながら、自分が少しずつ終点に近づいていることを意識する。1 時間ほど歩くと横を流れている **Arthur River** の流れが止まり、**Lake Ada** が右手に広がる。天気は快晴になり、少し暑い位の気温だ。湖岸に沿った場所で昼食を食べようとも思ったが生憎良い場所がなかったのでルートの近くで昼食。



急峻なフィヨルド溪谷の中を歩く。樹林帯だが時折展望が広がる場所もある。



Mackay Falls 全景。水は澄み切っており綺麗。



(左上)道は昨日に引き続き、広々として歩きやすい。1 日を通じた標高差は僅か 100m。

(上)Mackay Falls の展望台で写真を撮影してもらう。近くには **Bell Rock** もある。朝は曇りがちだったが、この頃になると晴れてきた。

(左)Arthur River を渡る。低い位置に雲が出ており、幻想的な光景である。





Lake Ada の展望。すぐ近くに湖があることは分かるのだが、眺望の良い場所は少なく、その大きさを実感できなかったのは残念だった。



31 番目の Mile Stone。ここで紹介するもの変だが、起点から 1mile 毎に Mile Stone が設置されている。終点は 33.5Mile なので、目的地まで後少しだ。

昼食後出発。20 分ほど歩いたところで Giant Gate Falls に到着。付近には同名の Shelter もあり、多くの人はそこで昼食を作っていた。中には滝壺で泳いでいる人も見掛けた。Falls を鑑賞しながら小休止。長いと思えた Tramping もあと僅か 2 時間ほどかと思うと感慨深い。

道は終点に近づくにつれて次第に歩きやすくなってゆくようだ。日差しの中を 1 時間ほど歩いたところで休憩を挟み、14 時過ぎに Sandfly Point に到着。ここからは Ferry で Milford Sound まで移動して、Milford Track を完歩したことになる。Ferry は 14 時・15 時・16 時の 3 つの便があり、事前に度の便に乗船するかを指定することになっている。ただ実際の所はあくまでも目安で、到着した順に人を乗せていくようだ。丁度 14 時発の Ferry が行ってしまったばかりからか、設置されていた Shelter には誰もいなかった。この Shelter も Guided Walker 用と Independent Walker 用の 2 つに分かれている。

Sandfly Point の名前の通り屋外にいと物凄い数の Sandfly が寄ってくる。Sandfly 除けのクリームを塗っていたので刺されるようなことはないのだが、厄介ではある。インスタントコーヒーを飲んで少々休憩した後、周囲の山々を鑑賞。改めて随分長い距離を歩いてきたなど実感する。

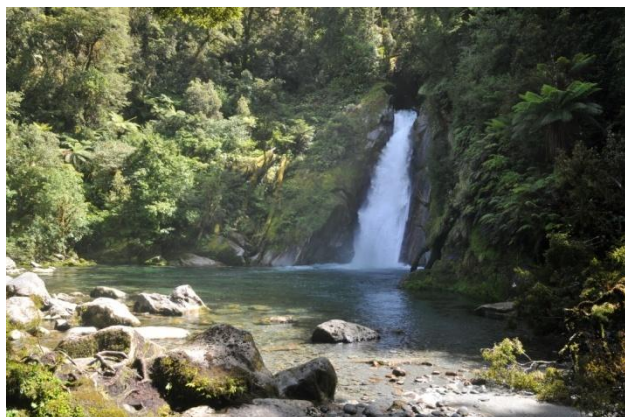
休んでいると続々と人が集まってきた。14 時 50 分頃になると湾の向こうから徐に Ferry が姿を現す。荷物を再びパッキングして乗船。遠景に見える山々が見えなくなるのを眺めながら、20 分ほどの乗船で Milford Sound に着いた。

Milford Sound は FioldLand 地域一帯の中でも唯一車でアクセスが可能な湾で、一般の観光客は Queenstown や Te Anau から日帰りでクルーズに来るか、クルーズ付きのツアーに参加する形になる。到着した Ferry の発着所には、5~6 社あるクルーズ会社のフェリーが競い合うように並んでいた。ここはクルーズの他に天気の良い日には遊覧飛行も出来るように小型機の発着場まである。湾内には 1989 年に起きた事故の鎮魂の碑があり、何気なく目を止めると、どうやら犠牲になったのはパイロットと氏名からして若い日本人だったようだ。合掌。

15 時を過ぎると日帰りのツアーは殆ど終了してしまが、事前にやや割高だが、Terminal を 16 時過ぎに出発し、船内で 1 泊するツアーを申し込んでいたのでそれに乗船。この日は船客は少ないからか 4 人共同部屋で申し込んでいたが、シングルルームが手配されていてラッキーだった。

天気予報は必ずしも外れていたのではなく、天気は時間が経つにつれ少しずつ曇りがちになり、翌朝目を覚ました時には雨が降っていた。翌日 9 時過ぎに再び Milford Sound に戻り、路線バスで Milford Sound を出発した。

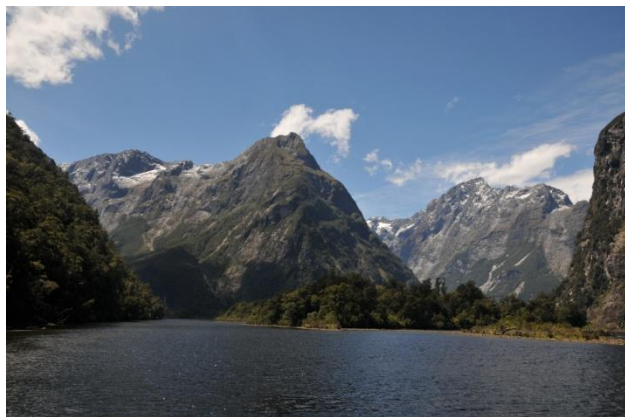
(追記)なお足の打撲ですが、オーストラリア滞在中始めの 1 週間は痛みが残ったものの順調に回復し、2 週目末にはほぼ通常通りに活動できるようになりました。そのため実習終了後の Tasmania での Trekking も予定通り実施することにしました。



Giant Gate Falls を撮影。滝壺付近では泳いでいる人もいた。近くには休憩所もあり、昼食休憩の最適地のようだ。



最終目的地の Sandfly Point に到着。広い休憩所がある。ただ名前に恥じない位沢山の Sandfly がいた。



(左上)Fiordland らしい山々が聳える。正面が Barren Peak、中央奥が Mt.Underwood。天気も快晴で心地よかった。

(上)1 時間ほど待って、Ferry が到着。思ったより小型だった。

(左)Arthur Canyon を振り返る。中央左寄りが Sheerdown Hills、遠方に見えるのは Mt.Daniel だろうか。今まで歩いてきた道のりの深さを感じる。





湾内の一角には昔の航空機事故の慰霊碑がある。
日本人が犠牲になったようだ。



小奇麗なフェリーで Milford Sound をクルーズ。



クルーズの 1 幕から。湾内には壮大なスケールの
滝が幾つもあり、これらを鑑賞する。



同左。船によっては滝壺近くまでアプローチ出来、
その威力を体感できることが出来る。